

防災カードゲーム「このつぎなにがおきるかな？」の遊び方

(土砂災害編)

1.おおまかな遊び方

1) カードの種類

このカードには、「どしゃさいがい」編です。その他、「すいがい」編と「つなみ」編があります。組み合わせによる活用も可能ですが、今回は、単独での利用を想定しています。

2) カードの構成

- ・「どしゃさいがい」(30枚)
- 1～7組(1組あたりA～Dの4枚) 28枚
- 「これぐらいならだいじょうぶかも・・・」 1枚
- ・表紙カード 1枚

机の上に並べるカード (A～C)	読み手のカード (D)

ゲームに使用しないカード



3) 遊べるメニュー

例① なにがおきるか ならべてみよう！ (防災7ならべ)

例② とるとるカード！ (防災かるた)

例③ だいじょうぶでは ありません！ (防災ババぬき)

このほかにも、みなさんで考えてみて下さい。

例① 【なにがおきるかならべてみよう!】(防災7ならべ)

※トランプの「7 ならべ」に似たルールです。

1) 人数の目安

2～4人

2) 進め方

- ① Aと書かれたカードを場にならべます。「どしゃさいがい」1～7の番号順に横に並べます。
- ② プレイヤー全員に、3枚程度均等にカードを配ります。余ったカードは裏面にしておいて山札カードにします。
- ③ じゃんけん等で最初のプレイヤーが、手持ちカードの中からBと書かれたカードを場に出ているAのカード(同じ組のカード)にならべて出すことができます。同じ組のカードで、B→C→Dと続くカードを持っている場合は、1回の中で続けて出すことができます。無い場合は山札カードを引き、Aのカードに続くカードがあれば置くことができます。なければ引いた山札カードを手持ちカードにして(1枚増える)、次の人にパスします。
- ④ 2番目以降のプレイヤーは、③の繰り返しです。
- ⑤ Dのカードを出したプレイヤーは、ABCカードのコメントと、Dカードの「!」マークコメント(そうならないために)を声に出して読み上げて下さい。
- ⑥ 最初に手持ちカードが無くなったプレイヤーが勝ちです。

3) 振り返り

並べられたA～Dまでのカードをもとに、土砂災害から気をつけること、逃げるための注意事項について、気づいたことを話し合しましょう。

②とるとるカード！（防災かるた）

※「かるた」に似たルールです

1) 人数の目安

3～6人（1グループ） ※そのうち1人が読み上げます

2) 進め方

- ①Dと書かれたカードを「かるた」の「読み札」にします。
- ②残りのカード（A～C）をテーブルに並べ「かるた」の「取り札」にします。
- ③読み上げ係が、Dのカードに書かれたコメントを読み上げます。
- ④ほかのプレイヤーは、読み上げられたコメントと同じ組のカードを素早く取ります。
カードは、プレイヤーがABCをバラバラに取ることができます。一人のプレイヤーが一度にABCの3枚を取ることもできます。
- ⑤取ったプレイヤー全員で、ABCカードのコメントとDカードの「！」マークコメント（そうならないために）を声に出して読み上げて下さい。
一番多くカードを取ったプレイヤーが勝ちとなります。

【進め方の一例】

⑤のコメントを読むタイミングは、「すべてカードを取った後」、「読み札のカードが取り終わった後」が想定されます。後者の「読み札のカードが取り終わった後」の方法について例示します。

③読み上げ係がコメントを読む

④プレイヤーが該当するカードをとる（1枚の読み札に対して合計3枚）。

⑤-1 取ったカードの英字の順番で「A」⇒「B」⇒「C」の順番でカードを取った人がカードの文字を読む

⑤-2 みんなで「そうならないために～」と声を合わせる。

⑤-3 読み上げ係が教訓を読み上げる。

3) 振り返り

並べられたA～Dまでのカードをもとに、土砂災害から気をつけること、逃げるための注意事項について、気づいたことを話し合しましょう。

例③ 【だいじょうぶでは ありません！】(防災ババぬき)

※トランプの「ババぬき」に似たルールです

1) 人数の目安

6～8人 (1 グループ)

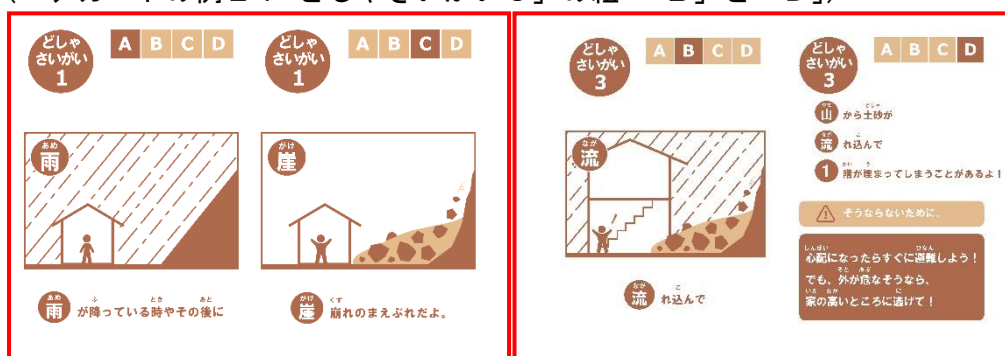
2) 進め方

- ① プレイヤー全員に、同じ枚数のカードを配ります。
このとき、「これぐらいならだいじょうぶかも・・・」
カードも1枚混ぜて配ります(トランプのジョーカーの
役割です)。



「これぐらいならだいじょうぶかも・・・」カード

- ② おなじ組のA B C Dカードのうち、2枚のカードをペアカードとして、テーブルに置くことができます。(プレイヤー全員が見える場所に置いて下さい)
(ペアカードの例1 : 「どしゃさいがい1」の組 「A」と「C」)
(ペアカードの例2 : 「どしゃさいがい3」の組 「B」と「D」)



- ③ じゃんけん等で最初の人、隣の人のカードを引きます。ペアとなるカードが引ければテーブルに置きます。
- ④ これらを繰り返し最初に手持ちカードが無くなったプレイヤーから抜けていき、最後に「これぐらいならだいじょうぶかも・・・カード」が手元に残ったプレイヤーが負けです。
負けたプレイヤーは最後に「だいじょうぶでは ありません！」と言って下さい。

3) 振り返り

並べられたA～Dまでのカードをもとに、土砂災害から気をつけること、逃げるための注意事項について、気づいたことを話し合しましょう。

3. 大人向け解説書

各カードの土砂災害による被害を回避するために必要な知識と避難行動に関するポイントは以下の通りです。

大人向けカードの解説（1/2）

カード	土砂災害の種類	土砂災害による被害を回避するために必要な知識
	がけ崩れ	<p>【災害時に遭遇してはいけない状況】 大雨が降った後、山や川の様子の変化に気が付かないでその場にいると、土砂に巻き込まれる。</p> <p>【回避に必要な知識】 土砂災害発生を予兆する前兆現象を知って避難行動に移れる。</p> <p>【避難行動に関するポイント】 土砂災害は前兆現象が起こる場合があります。ただし、前兆現象は本当に危険な状況を示すもので、雨の降り方や周辺の状況から判断し、前兆現象が起こる前に避難をしてください。</p>
	がけ崩れ	<p>【災害時に遭遇してはいけない状況】 土砂災害が発生しても自分の家が巻き込まれることはないと思い避難しなかったところ、土砂災害により自宅が土砂に巻き込まれる。</p> <p>【回避に必要な知識】 ハザードマップを事前に確認することが大切であること。</p> <p>【避難行動に関するポイント】 平成30年7月豪雨災害では、土砂災害の犠牲者のうち約90%が土砂災害の危険箇所およびその近傍にいたという調査結果があります。土砂災害は、いつ起こるかは分かりませんが、概ねの危険な範囲は、ハザードマップ等で公開されています。</p>
	がけ崩れ	<p>【災害時に遭遇してはいけない状況】 自宅の1階にいて、土砂災害に巻き込まれる。</p> <p>【回避に必要な知識】 天気が荒れる前に避難すれば、安全に避難できること ※垂直避難は、がけ崩れに対しては有効です。土石流に対しては、2階でも安全ではない場合があります(カード7と比べてみてください)。</p> <p>【避難行動に関するポイント】 土砂災害からの回避行動の基本は、早期避難です。土砂災害のスピードは速く人の足では逃げるのが困難です。また、危険を感じたときに周辺が増水し避難ができない状況も考えられます。</p>

大人向けカードの解説 (2/2)

カード	土砂災害の種類	土砂災害による被害を回避するために必要な知識
	がけ崩れ	<p>【災害時に遭遇してはいけない状況】 避難勧告等や気象警報に基づきすぐに避難行動が出来ない。</p> <p>【回避に必要な知識】 避難勧告、土砂災害警戒情報などの情報から避難行動を行うこと。</p> <p>【避難行動に関するポイント】 避難勧告や避難指示は、行政から示される避難の合図です。降雨予報や土砂災害警戒情報などの気象警報など様々な情報を判断し、発表されています。これらの避難情報が出たときは、安全を確認しながら、速やかに安全な場所に移動してください。</p>
	がけ崩れ	<p>【災害時に遭遇してはいけない状況】 避難中に土砂災害に巻き込まれる。</p> <p>【回避に必要な知識】 場所によっては、土砂に巻き込まれる可能性があること。</p> <p>【避難行動に関するポイント】 避難勧告や避難指示は、行政から示される避難の合図です。降雨予報や土砂災害警戒情報などの気象警報など様々な情報を判断し、発表されています。これらの避難情報が出たときは、速やかに安全な場所（外が危険な場合は、山と反対側の2階の部屋）に移動してください。</p>
	土石流	<p>【災害時に遭遇してはいけない状況】 土石流を確認してから逃げようと思ったときには、走っても間に合わなく、土石流に追いつかれる。</p> <p>【回避に必要な知識】 土石流の速度は、時速 30km 以上（地形や地質によっては時速 70km）であるため、走っては逃げられないこと。</p> <p>【避難行動に関するポイント】 土石流の移動速度は、早く時速 20km から 30km、時には、70km と言われています。人が走っては逃げることはできないため、川から離れる方向に逃げるようにしてください。</p>
	土石流	<p>【災害時に遭遇してはいけない状況】 垂直避難をすれば大丈夫と思い、自宅の2階に避難したところ、自宅の2階に土砂が流れこみ、埋もれる。</p> <p>【回避に必要な知識】 早めの避難を行わないと逃げられない場合があること。</p> <p>【避難行動に関するポイント】 がけ崩れに対して垂直避難は有効ですが、土石流の場合は、家ごと流される場合があります。そのため、土石流の警戒区域内にいる場合は、早期避難が命を守る最も有効な方法です。</p>

